

## 「私とおじいちゃんをつなぐもの」

加胡川香純（広島県庄原市／19歳 女性）

おじいちゃん、ごめんね。

あたしは、おじいちゃんに言いそびれた「ごめんね」をいっばいもつとる。人の目ばっか気にして、軽トラが嫌でいつも隠れとったり、おじいちゃんと一緒に買い物に行けれんかったこと……。今の私にはそれさえも恋しくて、おじいちゃんとやりたいことがいっぱいあるよ。おじいちゃんが「しんどいでよ」「腰がいてえ」って言っているのに、何もしてあげれんかった。もっと何か私にできることがあったんじゃないかって思う。

おじいちゃんの手を握った時、冷たいのに何だかあったたかった。ごつごつした手は、今まででどれだけ田んぼ仕事や牛の世話を一生懸命やってきたかが分かったよ。あたしも一生懸命生きようって思ったよ。

あたしは、牛を通しておじいちゃんをつながることができるような気がして、時々牛のいる牧場に行きたくなるんよ。おじいちゃんがよく牛に怒っていたのが印象に残っているけど、牛を売ってなった日、牛が流した涙は、きつとおじいちゃんに「ありがとう」って伝えてたんだね。あたしが生まれた時からずっと牛と一緒に過ごして、牛を通しておじいちゃんの愛とか優しさを受けてきた。そんな愛を受けてあたしは今年二十歳になるよ。おじいちゃんに似た性格になってるかな？

私はこれからもずっとおじいちゃんを尊敬してるし、牛が大好きなのは変わらない。家に帰ると、今はおじいちゃん、いないけど、すぐ帰ってくるような気がするし、「おお、帰ったんか」って迎えに出て来てくれるような気がするよ。

次おじいちゃんに会う時は、「おかえり」って迎えてくれるかな？

そしたら、あたしはおじいちゃんにこたえるよ。

「ただいま。おじいちゃん、ありがとう。」